

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年 1月 23日

事業所名 チャイルドウイッシュ那加

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容に合わせ間仕切りを使い有効活用している。	遊具の安全点検を日々行い。安全に療育を行えるように日々注意を払っている。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な配置を行い、個別・集団活動での人員配置の工夫をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務前の打ち合わせで業務の確認・連携を行いスタッフ間の共有をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			できる限り保護者の意向に寄り添えるように努力している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な研修に一人は参加できるようにしている。	外部への研修などに積極的に参加し資質の向上に努力している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			状況を把握することに加えアップデートや修正を行うように心がけ、共有を行う。K式やWISCなどの発達検査を参考に話し合いを行うようにする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ間で共有しながら意見を出し合いベストな立案ができるように工夫をしている。	利用者のメンバーや人数に合わせ利用者の意向も取り入れながら活動のプログラムを考えるようにしていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者のニーズに合わせて個別のプランを必要に応じてマンネリにならないように工夫している	新しい活動をもっと考えてマンネリにならない支援策を考えられるようにしたい。外出支援や製作活動をもう少し取り入れられるようにしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		タイムスケジュールを子どもたちと共有しながら課題に応じて必要な支援設定をおこなっている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			必要に応じて個別に対応したり、集団での活動を組み合わせながら、計画の作成を行うようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		次回の利用時にもスタッフが共有できる事項をまとめ応用できることや気を付けたいことをまとめている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			複数を組み合わせることは難しいが個人や集団の活動の中で必要に応じた基本活動を取り入れるようにします。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校からの下校時間のお手紙の中を読ませて頂いたり、気になる事柄などは保護者にお聞きするようにしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	非該当			非該当
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	非該当			非該当
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関との連携を行えるように定期的に専門機関への問い合わせをしたり、また来ていただき支援内容の確認を行っています	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		事業所として現実的には交流を行う事は難しい。利用者自身は家庭や学校保育園等で障害のない子との交流ができていたためあえて交流をする活動を設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		協議会等に参加できる機会とタイミングが合わない為参加が難しい。今後積極的に参加できる機会を作りたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に保護者に今日の活動内容や様子を伝えるようにしている。ノートにも記入して共有している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始の契約時に説明を行い。保護者からの質問等に応えられるようにしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に保護者様からの困りごとがないかをお聞きしたり、ノートを通じて様子を伝えるなど助言を行えるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		仕事をしている保護者が多いため集まれる機会を作るのが難しい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			現時点での苦情を受け付けたことはない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		定期的な会報の発行は行っておらず、個々に情報を共有したり、送迎の時に保護者とのコミュニケーションを図り連絡体制の強化を行っています。インスタ等を活用し定期的に発信できるシステムをつくようにしたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		事業所に地域住民を招いてできる活動を考えていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		保護者へのマニュアルの共有が来ていないので今後お知らせ等で定期的に周知できるようにします。各マニュアルを年度初めに保護者に配布したり、職員間で見直す機会を決めて行きたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	災害が起きたときに具体的にどうすれば良いかを子どもにわかりやすく説明を行うようにしている。	非常時の時の対応策を子どもと共有できるように定期的に災害の話をするなど行い利用者や支援者側が協力し合える体制を構築できるようにします。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギーのあるお子さんはおやつ持参をお願いしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリとした事例は記録残し再度職員間で共有し同じことをおこさないための対策を常に話し合うようにしている。	